

31:12 主はモーセに告げて仰せられた。
31:13 「あなたはイスラエル人に告げて言え。あなたがたは、必ずわたしの安息を守らなければならない。これは、代々にわたり、わたしとあなたがたとの間のしるし、わたしがあなたがたを聖別する主であることを、あなたがたが知るためのものなのである。
31:14 これは、あなたがたにとって聖なるものであるから、あなたがたはこの安息を守らなければならない。これを汚す者は必ず殺されなければならない。この安息中に仕事をする者は、だれでも、その民から断ち切られる。
31:15 六日間は仕事をしてよい。しかし、七日目は、主の聖なる全き休みの安息日である。安息の日に仕事をする者は、だれでも必ず殺されなければならない。
31:16 イスラエル人はこの安息を守り、永遠の契約として、代々にわたり、この安息を守らなければならない。
31:17 これは、永遠に、わたしとイスラエル人との間のしるしである。それは主が六日間に天と地とを造り、七日目に休み、いこわれたからである。」
31:18 こうして主は、シナイ山でモーセと語り終えられたとき、あかしの板二枚、すなわち、神の指で書かれた石の板をモーセに授けられた。

以前に命じられた「安息の日」について、ここで再び命じられています。それほど安息日は重要であるということです。それは「わたし（主）があなたがた（民）を聖別する主であることを、あなたがたが知るためのものなのである。」とあります。言い方を換えるなら、安息日を守らないなら、主がどういう方なのか分からなくなるということです。

私たちはこの世、すなわち神様を計算に入れずに人間の勝手によって動いている世界に生きています。やがて神様がその主権を明らかにするのですが、それまではまるで神様などいないかのような考えの中にいるのです。

ですから私たちはこの世から離れて、神様の前にひれ伏す必要があるのです。世界中に二十数億のクリスチャンがいますが、皆同じです。神様がいないれば宇宙も人間も存在しないということは当然ですが、それでもそのことを忘れないようにしなくてはなりません。

たましいの飢え渴きは、そうとうに進んだ状態であれば、これに気づくことができません。毎週主のもとへ帰りましょう。そして安息をいただきましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

